

一褥瘡をつくらない・悪化させない地域づくりを目指すー



第1回 渋川褥瘡ケアネット レポート

日時：令和8年7月7日（火）午後7時00分～

会場：渋川医療センター 大会議室

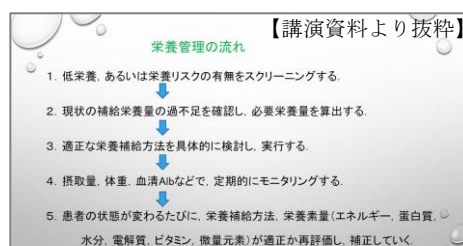


（1）講演「褥瘡の基礎知識」

渋川医療センター 皮膚科医師 高橋 亜由美 氏

参加者内訳

職種	計
医師	5
薬剤師	2
保健師・看護師	29
PT・OT・ST	6
管理栄養士・栄養士	9
ケアマネ	9
介護職員	1
その他	6
合計人数	67



褥瘡患者の安静時熱量消費量は亢進しており、改善のためには、十分なカロリーとたんぱく質、ビタミンが必要とのこと。

「渋川褥瘡ケアネット」は、褥瘡に関する知識を深めるとともに、日頃の困りごとなどを気軽に相談できる場として発足しました。第1回講演では、褥瘡の治療に必要な「局所治療」「栄養」「ポジショニング・リハビリテーション」についてお話していただきました。「褥瘡は、多職種による全身的な治療が必要」とのこと。急性期病院では特に、褥瘡を完治してから退院は少ないそうです。退院後も自宅や施設で治療を継続できるよう、渋川地区の体制を構築していきたいとおっしゃっていました。



（2）症例検討

渋川医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 真藤 由美子 氏



渋川医療センターにて「退院後訪問」を実施した事例の紹介でした。退院後訪問とは、在宅医療への移行を支援するために、入院していた病院の医師・看護師が退院先を訪問し、指導する制度です。褥瘡部やポジショニング、体圧計を用いた座位時・臥位時の圧、生活動作や栄養状態等を確認するそうです。入退院などで生活の場が変わると、褥瘡のケアに関わる人も変わるため、情報共有がしっかりとされないと、褥瘡が悪化してしまうとのこと。褥瘡は「予防すること」、できてしまったら「重症化させない」ことが大切であり、そのためには、生活の場が変わっても地域で連携し、褥瘡の状態や経過を共有していくことが必要とのことでした。

【次回 開催予定】 令和9年1月12日（火）19時～／渋川医療センター 大会議室

（1）講演 「耐圧分散寝具の選び方」（仮）

講師：渋川医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 真藤 由美子 氏

（2）症例検討

※渋川褥瘡ケアネットでは、褥瘡に関する質問も受け付けています。
（研修会にてご回答させていただきます）